

雪害に対する農業用ハウス等被害防止対策

平成30年1月31日
塩谷南那須農業振興事務所

平成30年1月31日9時7分宇都宮地方気象台発表発表の天気予報によると、栃木県の2月1日(木)は、日本の南を低気圧が東北東へ進み、夕方から雪の降る所がある見込みです。今後の気象情報に注意するとともに、ハウスの補強や補修等の事前対策の徹底をお願いします。

また、雪は2日(金)の昼過ぎまで降ることが見込まれ、みぞれや雨になることが考えられます。雪がみぞれや雨に変わるときに、ハウスに積雪があると雪の重みが増し、倒壊する危険性が高くなるので、特に注意しましょう。

事前対策

1 情報収集

(1)「栃木県防災メール」や「とちぎ農業防災メール」などによる情報収集に努める。

2 ハウスの点検・補修等

(1) プレースや筋交い等の緩みを点検し、必要に応じて増締めする。

(2) サビや破損箇所を点検し、必要に応じて修繕する。

(3) 連棟ハウスでは、スプリングの2重留やフィルムの捨て張りなど、谷からの浸水防止対策を行う

(4) 根がらみ、中柱、つかえ棒、ワイヤー、方杖等で補強する。

3 融雪準備

(1) 暖房機の燃油残量と正常動作を確認する。

(2) 発電機を準備し、動作確認を行う。

(3) ハウス周囲に排水路を掘り、融雪水の排水対策を行う。

4 積雪防止

(1) 谷樋や排水路のゴミを除去する(特に雨樋の落とし口部)。

(2) 被覆材表面にある雪の滑落を妨げる突出物やネット等を除去する。

(3) 外張りフィルムのたるみをなくす。

(4) 作物を栽培していないハウスでは、被覆資材を取り外す(特に、水稻育苗ハウス)。

降雪時の対策

1 融雪対策

(1) 内部被覆(内張りカーテン)を一部または全部開放し、暖気や地熱の放射で融雪する。

(2) サイド被覆の巻上げは、完全に下ろさず、スソぎりぎりで止める(完全に下ろすと積雪で開けられなくなる場合があるため)。

(3) 暖房機のあるハウスでは、雪の降る前から通常よりやや高めの温度設定で加温する。

(4) 連棟ハウスでは、谷部分の融雪を促すように暖房のダクトを配置する。

(5) ウォーターカーテンのあるハウスでは、雪の降る前から水を流しハウス内の保温に努め、雪が積もらないようにする(雪が積もってからでは溶けにくい)。

(6) 積雪後に融雪を目的とした散水はしない(雪が水分を含むことにより重さが増し、倒壊の危険が高くなるため)。

2 除雪

(1) 積雪時は、早めに雪下ろしをする。

(2) ハウス側面の除雪を徹底する。

(3) ハウスの片側に積雪が偏らないように除雪する。

(4) 農業用トラック、集乳車、飼料配送車等の進入路を確保する。

事後対策

1 ハウス各部の損傷や緩み等を点検する。

2 地温の低下を防ぐため、マルチ等の昇温対策をする。

3 ハウス内の湿害を避けるため、融雪水を排水する。

4 降雪後晴れると、ハウス・トンネル内の温度が急速に上がることがあるので、換気に注意する。

5 一部倒壊の場合は、施設の補修を行う。作物が生育中の場合は、保温対策としてビニル、保温マット等でトンネル被覆をするか、べた掛け資材を被覆し、保温に努める。

6 制御装置の設定と正常作動を確認する。



気象災害による農業被害を未然に防ぐため、

技術対策情報が 携帯電話等に直接メール配信される

「とちぎ農業防災メール」のご登録をお願いします!

併せて、気象警報・注意報等が直接メール配信される

「栃木県防災メール」のご登録をお願いします!



↑「とちぎ農業防災メール」
登録はコチラから



↑「栃木県防災メール」
仮登録はコチラから